足、つばさ

シャー芯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
足、つばさ

【Ｎコード】
Ｎ４９８０Ｇ

【作者名】
シャー芯

【あらすじ】
・・・・・・・こころの変化、生きる決心。

星空が綺麗な夜だった。
私はタバコと注射器を手に、
黒く染まった雲を見つけた。
街は眠らない。　月は壊された。

一人の戦友が言った。
「俺には帰る場所がない」
「だから、戦うんだ」
けど、その人は泣いていた。

食事が趣味のおばさんが、
「身体を大事にしなさい」と、
やかましい口調でほざいた。
自分はどうなの？　聞けなかったけどさ。

つまり、たとえば、だから、あれ？　どれ？　それ？
頭が痛くなる。　何もかもなくなっちまえ。
自暴自棄なんて格好が憑かないね。
笑った私はラリってる。　あざだらけ。

どっかの兄弟が、空飛んだんだって。
噂話。　興味ない振りした。
今日は、金持ちの野郎から鞄を引っ手繰った。
今日は、ご馳走だ。
マリファナが欲しいな。　真っ白に、なりたいな。

空、戦友は地雷を踏んで、

足を翼に変えて、逝ってしまった。
知ってるんだ。　アイツには愛する人がいる。
神を恨んだ。　いつか殺してやる。

星空が雲に消されてしまった。
「明日、雨がふるんだよ」
私は小さく頷いて、笑ってみせた。
その人は、私を太陽みたいだね、といった。

聖書のようにずっと変わらぬ思いを、
人は抱き続ける事は出来ないのかな？
戦いはいつの間にか終わって、
私の生きる意味も終わってしまった。

「馬鹿だね」ってよく言われる。
戦場で私は、両手で数えられる人しか、
殺せなかったくせに、　と。
罪って鞄を背負い続けて、その人は翼を貫いに逝ってしまった。

無くなった片足。　まだ、慣れない。
顔が火照る程、苦しい心が求める。
折れない翼。　どこに行けばもらえるの？
タバコの煙は宙を舞う。

綺麗な瞳の隣人が言った。
「一緒にランチを食べよう」
私は、なんだか気恥ずかしくて
頭をかきむしった。　隣人は笑った。
隣人は言った。　私を抱きしめながら。

「運命なんだ」　と。
神様に感謝しなくちゃいけないんだって。
そうかも知れないね、そう思うことにする。

朝、ベッドから起き上がる。
すると運命の人が、キスしてくれた。
運命の人。
出会ってから私は、世界が軽く、明るく感じるんだ。

無くなった足。　罪、過去、記憶。
自暴自棄になりたいけど、
すべて事実な訳で、それは変えられなくて。
だから、背負って生きるしかないんだ。

ブルーの花束を持って、
屍のある館へ。　空は晴れている。
足取りは、不思議と軽い。
背中に、つばさが生えたんだ。

天使のような運命の人に出会った。
心はもう、泣かない。
マリファナとタバコとナイフ、拳銃。
運命の人、貴方のためなら何なりと。

足、つばさ、運命の人。
私は前を見て歩く。　過去を背負って。
戦友に言う。　あなたは、素敵な人。
蒼いバラは、奇跡のよう。　宙を舞って灰になった。

十字架を刺された箱。

胸に、ここに生きた証を。
足は折れてしまった。　けれど、
このつばさは消えない。　貴方と共に。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4980g/

足、つばさ

2010年10月21日20時51分発行